

埼玉県荒川水系のカワノリ生育の聞き取り調査

三瓶ゆりか（川の博物館）

はじめに

カワノリ *Prasiola japonica* Yatabe は、全国各地の河川上流域に生育する淡水緑藻類である。埼玉県内では、荒川水系上流（入間川を含む）の秩父系地層で、海拔高度300～800m、夏期の水温が19度以下の区域に限り生育するとされている（埼玉県環境部自然環境課，2012）。荒川水系においては、1984年に行われた分布調査によって、17地点で生育が確認され、その詳細は原口（1995）で報告されている。本種は、埼玉県レッドデータブック2011では準絶滅危惧（NT）、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

調査方法

原口（1995）の生育地情報をもとに、2020年5月から11月にかけて、荒川流域のカワノリの生育地について、地元住民への聞き取り調査を行った。なお、荒川流域において溪流に生育する葉状の藻類はカワノリ以外に確認されていないこと、食用とされることから、類似種と間違える可能性は低いと考える。

調査結果

結果を図1にまとめた。2020年に生育が確認された河川には●、2019年以前に生育が確認された河川には○を記載した。各河川における生育状況の詳細は以下の通りである。

・有間川

有間川上流にて近年生育が確認されているが、2020年には生育は確認されなかった。令和元年東日本台風による土砂の流入などの影響を受けていると考えられる。

・名栗川

名栗川は、入間川の上流部の別称である。名栗川本流と山中入では生育が確認された。名栗川本流では著者も生育を確認した。名郷地区では現在まで干しのり作りが行われており、安定した生育地であったと考えられる。しかし、2020年の生育量はわずかで、例年に

比べて激減している。令和元年東日本台風による河床の流出などの影響を受けたものと考えられる。原口（1995）で生育が確認された白岩入では確認されなかった。湯の沢川での生育は、不明である。

・都幾川

原口（1995）で、生育が確認された外川では、生育は確認されなかった。

・浦山川

橋立川にて2019年まで生育が確認されたが、2020年の生育状況は不明である。原口（1995）で生育が確認された大久保谷と細久保谷では、確認されなかった。

・川浦溪谷

寺沢と安谷川本流で生育が確認された。寺沢では著者も生育を確認した。干しのり作りを続けている複数名から、採取場所として安谷川の名前が挙がった。しかし、今回確認された場所での生育は少量であり、例年に比べて生育量が少ないとの声も聞かれた。

・大血川

大血川本流と西谷での生育が近年まで確認されており、大血川本流では2020年も確認された。今回新たに、大血川溪流観光釣場の敷地内にて、2019年と2020年に確認された。原口（1995）で生育が確認された井戸沢と鉄砲沢での生育は、不明である。

・中津川

原口（1995）では、不動の滝（蛹沢）・入波沢・藤十郎沢での生育が確認されているが、今回は不明である。また、井戸沢とオロ沢ではかつて生育していたとの証言が得られたが、現在は不明である。

・赤平川

小森川と薄川では2020年まで生育が確認された。小森川では著者も生育を確認した。現在まで、両方の川沿いで干しのり作りが行われており、比較的安定した生育地であると考えられる。原口（1995）で生育が確認された河原沢では、7～8年前に採取したとの証言は得られたが（黒沢，2011）、近年の生育状

況は不明である。同じく仁平沢での生育は確認されなかった。

考 察

生育に関して、主に、日照不足と台風による生育環境の変化についての声が聞かれた。

かつては頻繁に行われていた伐採が激減し、河畔林が高層化したことにより、河床へ影を落としているという。流域が暗くなり、近年生育が確認されていない、または生育地点が変わったという声が聞かれた。

また、秩父・飯能地域では、2019年10月の令和元年東日本台風による河川への土砂の流入や河床の流出などの被害を受け、大規模に河川環境が変化しており、復旧工事が続けられている場所も多くあった。このため、生育が確認できない、あるいは激減しているという声も多く聞かれた。

台風等による生育地の攪乱は、過去にも他地域で数件の記録がある。静岡県河津川では、1958年の狩野川台風による河床の変容後と、1978年の伊豆大島近海地震による大規模な土砂崩れ後に、それぞれ絶滅が心配されたが後に生育が確認されている（岩本，1984、石川，2009）。一方で、栃木県の大谷川では、明治39年の大洪水で激減し、さらにその後の製銅所の設立により下流での生育条件が悪化し、絶滅したとされている（岩本，1984）。今回生育の確認がされなかった、あるいは減少した場所も、今後継続して調査し続ける必

要性があると考ええる。

謝 辞

今回の調査にご協力いただいた、有間溪谷観光釣場、大血川溪流観光釣場、埼玉県森林科学館、および、馬場守、強矢あゆみ、原口和夫、岩田勝吉、中村綱秀、小澤正幸、斉藤裕也、芝崎光生、山口喜三、山中マツヨ、山中豊彦、吉田真一の諸氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 原口和夫（1995）埼玉県荒川水系におけるカワノリ（*Prasiola japonica* YATABE）の分布と着生環境．埼玉県立自然史博物館研究報告，13：29-35.
- 石川元康（2009）日本におけるカワノリの生育地．日本大学国際関係学部生活科学研究報告32：49-58.
- 岩本康三（1984）日本におけるカワノリの分布．藻類，32(2)：167-185.
- 黒沢和義（2011）山里の記憶2 山里の笑顔と味と技を記録した二十五の物語．227pp．同時代社，東京都.
- 埼玉県環境部自然環境課（2012）埼玉県の希少野生生物埼玉県レッドデータブック2011植物編．433pp．埼玉県環境部自然環境課，埼玉県.

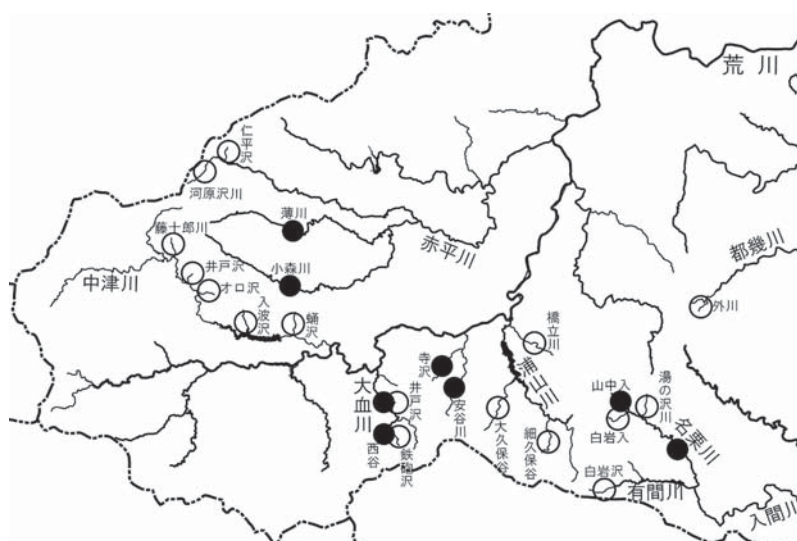


図1. 荒川水系におけるカワノリの分布

●：2020年に生育が確認された河川、○：2019年以前に生育が確認された河川